

令和3年12月1日

第210号



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25  
TEL.027-210-1158  
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



「初冬の小田代原（小田代湿原希少個体群保護林）」日光森林管理署

- ◎ 生産性向上の取組みと採材検討会の開催 資源活用課・・・2
- ◎ 治山の現場から 大井川治山センター・・・4
- ◎ 令和3年度新規採用者 はじめての顔合わせ 総務課・・・5
- ◎ 森づくり最前線 会津森林管理署小野川森林事務所 首席森林官 奥田康弘・・・6

# 生産性向上の取組みと採材検討会の開催

資源活用課

関東森林管理局では、平成28年度から森林管理署等が発注する全ての伐採事業を対象に、請負事業体の生産性を向上させる取組を行っています。

その主な内容は、作業日報の作成、作業日報分析支援ツールを活用した工程管理やボトルネックの洗い出し、森林管理署等と請負事業体と一緒にやるボトルネック改善方法の検討です。

この取組も5年が経過し、地域差があるものの成果が現れています。関東森林管理局全体の生産性は、主伐は8.1m<sup>3</sup>/人日（平成28年）から10.8m<sup>3</sup>/人日（令和2年）へ、間伐は5.0m<sup>3</sup>/人日（平成28年）から8.4m<sup>3</sup>/人日（令和2年）へそれぞれ向上しています。

最終的な目標（令和7年）は、主伐12.2m<sup>3</sup>/人日、間伐8.2m<sup>3</sup>/人日としています。その実現に向けて、今後も取組を継続するとともに、機会あるごとに成果をお知らせし、国有林のみならず、民有林を含めた伐採作業の生産性向上に貢献していきたいと考えております。

また、森林管理署等では、地域の林業関係者（林業事業体、森林組合、県、市町村、研究機関等）が参加する採材検討会を開催しています。

森林管理署職員や伐採事業の請負事業体とともに、製材業者も参加し、各々の立場から採材に関して意見を交換し、地域全体での採材技術の向上を図っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のため集合開催が難しかったところでしたが、10月以降の沈静化を受け、磐城森林管理署と下越森林管理署で11月12日に採材検討会を開催しました。

採材検討会では、全幹材（立木を伐採し、枝葉を切除した幹）や丸太が用意され、参加者がそれぞれの立場で曲がり等の状態を確認しながら、採材方法の予想や品等の格付けを行いました。その後、採材の方法を決めた理由、曲がりの許容範囲などについて意見交換が行われました。

参加者の立場により、最適な採材方法や格付けの考え方が異なるため、今年のような木材不足や木材価格上昇時には、このような採材検討会を行って共通認識を持つべきとの意見が出されました。

森林管理署等では、原木丸太の品質向上や有利な木材販売に向けて、今後も採材検討会を開催してまいります。最寄りの森林管理署等において開催される場合もありますので、ホームページ等でご確認願います。



下越署での採材検討会  
(採材検討前の説明)



下越署での採材検討会  
(採材後の意見交換)

生産性の向上によるコスト低減、最適な採材による有利な木材販売は、林業事業体の利益向上等はもちろん、山村地域の活性化のみならず林業の持続的経営にもつながることから、今後ともこれらの取組を継続してまいります。



磐城署での採材検討会  
(格付けの検討)

## 食べると死ぬ！ 猛毒きのこ

ここで紹介するきのこは過去に死亡中毒が発生しているきのこです。

この他にも死亡する可能性のあるきのこは沢山あります。

きのこは、日本では研究が遅れている分野ですので、野生のきのこを食べる時は十分注意してください。  
わからないきのこは、採らない、食べない、人にあげないを徹底して守ってください。

### フクロツルタケ（猛毒）（テングタケ科 テングタケ属）

7月上旬から10月下旬に広葉樹林内地上に単生から散生する。

カサは5 cmから10 cm位で白色の地に淡茶褐色の綿屑状の鱗片（外被膜のなごり）が付着する。

ヒダは白色で柄に離生する

柄は5～10 cmで白色の地にカサと同様の鱗片があり、ツバ（内被膜）はない。

下部には淡茶褐色の大きな袋状のツボ（外被膜）がある。

肉は傷つけると赤く変わりやがて淡紅色になる。



### ニセクロハツ（猛毒）（ベニタケ科 ベニタケ属）

7月中旬から10月上旬にブナ科の樹木林内地上に散生する。

日本では、関東以西でしか発生が確認されていないきのこであるが、他の地方でも発生する可能性があるので注意が必要である。

カサは4 cmから11 cmで表面はピロード状で灰褐色から灰黒色である。

ヒダは白色からクリーム色で疎で肉厚でもろい、柄に離生又はやや垂生する。傷付くと赤変する。

柄は3 cmから6 cmで表面の色はカサより淡色

肉は白色で傷付くと赤変する。

ちなみに、日本で一番死亡率の高い毒きのこである。



### クロマゴテングタケ（猛毒）（テングタケ科 テングタケ属）

7月下旬から10月中旬に広葉樹林内の地上に単生から散生する。

カサは3 cmから7 cmで黒色で暗灰色の繊維状の鱗片に密に覆われ、湿っている時多少の粘性が有る。

ヒダは白色で柄に離生する。

柄は6 cmから10 cmで灰白色から灰褐色の繊維状の鱗片でだんだら模様になり、上部に灰色から灰白色の膜質のツバ（内被膜）があり、下部に白色のツボ（外被膜）が有る。



## 治山の現場から

## 大井川治山センター

大井川治山センターの事業区域は、静岡県の大井川上流部に位置し、糸魚川－静岡構造線と中央構造線に挟まれ、地質は極めて脆弱で、年間降水量も多く、全国屈指の荒廃地の多い地域です。このため、民有林の大規模な崩壊地の復旧を図るため、民有林直轄治山事業により、国が直轄で事業を実施しています。土砂の流出抑制対策として、治山ダム等の溪間工や山腹工の整備を進めています。

令和3年度の工事については、静岡市井川地区で6件、川根本町榛原川地区で6件、計12件の工事を実施しています。全工事のうち10件が山腹工、2件が溪間工で、山腹工では40度を超える急傾斜地での工事のため、高所作業のほか、RCM（ロックライミングマシン）やケーブルクレーン等を使用することが多いです。これらの工事を4名の職員で監督を担当しております。

今年、完成した工事の1つを紹介します。

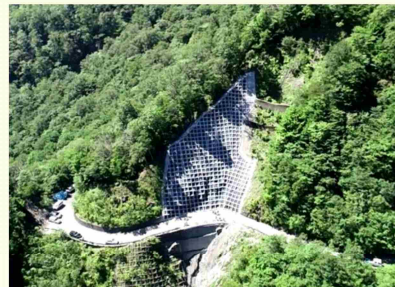
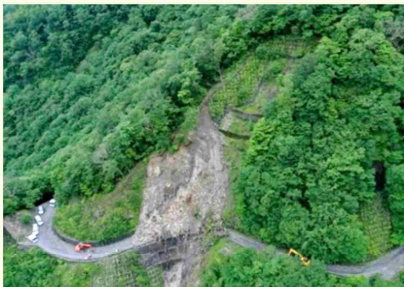
### 【榛原川地区（ゴボウ薮）直轄施設災害復旧工事】

令和2年7月豪雨により、林道法面上部に施工した既設の法枠工等が崩落し、土砂とともに構造物が下方の林道へ流出し、林道が通行止めになりました。

復旧対策として、RCMで法面を整形した後、再度、簡易法枠工を施工しました。



RCMによる法面整形



簡易法枠工の施工

### 最近のトピック：林野庁業務研究発表会にて最優秀賞を受賞！！

当センター若手職員2名が、令和3年11月18日（木）に林野庁で開催された「令和3年度国有林野事業業務研究発表会」に参加しました。本発表は、昨年2月に関東森林管理局で開催された「森林・林業技術等交流発表会」で発表した「ドローン写真測量等を活用した治山工事における出来高計測について」で、急傾斜地での現場作業員の安全確保を目的としたものです。

発表会は、WEB会議方法での開催となり、審査員から各種質問を受けましたが、2人とも練習どおりに落ち着いて応答できました。2人の奮闘が実り、なんと森林保全部門で最優秀賞を受賞することができました。

当センターとして、引き続き、新技術等の技術開発・普及に取り組み、積極的に治山事業をPRしていきます。



# 令和3年度新規採用者 はじめての顔合わせ



新型コロナウイルス感染症の影響のため、11月ようやく全員が一堂に会しました。

**【前列左から】**

- 島田清香 総務企画部経理課
- 田島笹 東京神奈川森林管理署
- 海藤さつき 日光森林管理署
- 山口輝文 森林整備部長
- 高橋東 総務企画部長
- 赤崎暢彦 局長
- 森山昌人 計画保全部長
- 角川美咲 会津森林管理署
- 湯澤りおな 茨城森林管理署
- 山岸毬愛 森林整備部技術普及課

**【後列左から】**

- 後藤龍佑 計画保全部保全課
- 山田大翔 下越森林管理署
- 平山貴寛 利根沼田森林管理署
- 川畑裕輝 中越森林管理署
- 三浦次郎 磐城森林管理署
- 仲田郁実 山梨森林管理事務所
- 川本魁 会津森林管理署南会津支署
- 山田丞晟 磐城森林管理署
- 栗崎聡一郎 茨城森林管理署
- 田原幹丈 埼玉森林管理事務所
- 桑原健太 計画保全部計画課
- 松田泰至 天竜森林管理署
- 奥田天斗 伊豆森林管理署
- 井實将 千葉森林管理事務所
- 五十子碧 総務企画部企画調整課
- 白井義人 群馬森林管理署

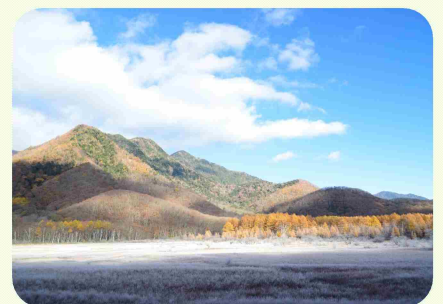


今月の表紙

## 「初冬の小田代原(小田代湿原希少個体群保護林)」 日光森林管理署

小田代原は「小田代湿原希少個体群保護林」に指定されており、保護林内の中央に湿原が広がり、タテヤマスゲ、ニッコウザサ、ホザキシモツケなどの植生が分布しています。湿原の周辺はカラマツ、ミズナラ、シラカンバを主体とする森林に囲まれています。

また、周回できる遊歩道が設けられており、初夏から8月にかけてアヤメやノアザミ、ホザキシモツケが美しく咲きます。多くのハイキング客が訪れ、小田代原の湿原に立つ1本のシラカンバは「小田代原の貴婦人」と呼ばれて人気です。



# 森づくり最前線

会津森林管理署小野川森林事務所  
首席森林官 奥田康弘



私の勤務する小野川森林事務所は、福島県耶麻郡北塩原村にあり、村の面積のおよそ58%に当たる約1万3千ヘクタールの国有林を管理しています。また、北塩原村のほぼ全域が磐梯朝日国立公園に指定されています。磐梯山、安達太良山、吾妻山に囲まれた標高800m程度の高原状の地域は、裏磐梯または裏磐梯高原と呼ばれ、全国各地から人々が自然とのふれあいを楽しむために訪れています。中でも、1888年の磐梯山の噴火の際、裏磐梯で大規模な岩なだれが発生し川をせき止めたため、数百の湖沼が形成されました。その一つである五色沼湖沼群は、沼によって湖面の色がそれぞれ異なることから、その名がつき、神秘の湖沼ともいわれています。(写真1、2)

国有林では、豊かな自然を森林レクリエーションの場として国民の皆様にご利用いただくため、山岳、渓谷、湖沼などと一体となった美しい森林や野外スポーツに適した森林を「レクリエーションの森」に選定しています。当事務所管内の「裏磐梯デコ平スポーツ林」は、その中でも特に「日本美しの森お薦め国有林」に選定されています。スキー場やゴンドラのほか、森林鉄道の軌道敷跡を利用した小野川湖畔探勝路など多くの遊歩道が整備されており、新緑、紅葉の季節等に多くの観光客が利用しています。

デコ平湿原やスキー場ゲレンデに群生するヨツバヒヨドリの花を求めて、夏に旅する蝶「アサギマダラ」がやってきます。「アサギマダラ」は約2000キロ以上を旅する綺麗で不思議な蝶で、里山では中々見ることができません。(写真3、4)

当事務所では、伐期を迎えた人工林、特に分収造林・分収育林の皆伐後の保育事業が増大してきています。つる切・除伐を行う適期を見極め、熊の剥皮被害もあることから、動植物と共存できる自然豊かな森林を育てるため、地域の声を取り入れた森林づくりに取り組んで参りたいと思います。(写真5)



写真1  
事務所裏から見える磐梯山

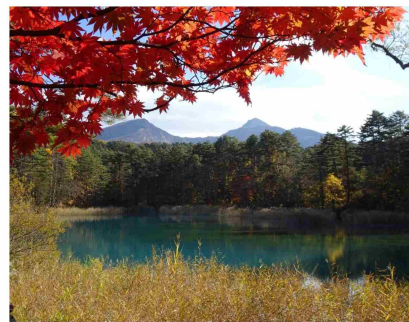


写真2  
五色沼湖沼群の一つ  
※奥は磐梯山

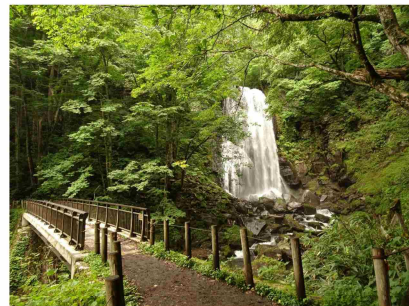


写真3  
森林鉄道跡を利用した歩道  
※奥は小野川不動滝

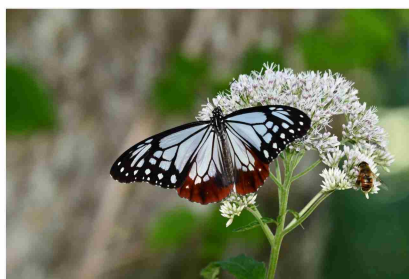


写真4  
旅する蝶  
アサギマダラ



写真5 植付検査の様子 下刈実行中の様子

発行所 関東森林管理局  
編集 総務課  
TEL (027)210-1158  
FAX (027)230-1393